

## 5. 今後の研究成果のとりまとめ方策

今後、それぞれに得られた結果を内外の雑誌に発表するなど、研究成果の公表に努めるつもりである。特に、本研究のとりまとめた成果を Nature 等の権威ある海外学術雑誌に投稿準備をしている。また、各班において、それぞれの各国のカウンターパートと協力して、とりまとめのワークショップ、出版などを企画している。

本研究で得られたデータ、知見を利用して、さらに発展した研究を進めることと、上記のような研究成果とりまとめを目的で、各班において研究資金の獲得を行っている。

「放射・熱収支モニタリング」班では、日本学術振興会より研究成果公開促進費（種目：データベース）の採択を受け、長期モニタリングデータの整備と新たな研究推進を行っている。また、アジア地域で展開中の主に二酸化炭素フラックスのモニタリングを行うプログラムとの情報や研究成果の共有を目指している。

また、本研究の主要な若手研究者を、各地域に共通のテーマを持った「クロスカッティング」的なグループに編成し、その一部は H14 年度より開始した科学研究費基盤研究（A）によって研究を続行している。これは、本研究において取得した貴重なデータと、いくつかの研究結果を用いて、長期的なモニタリングを継続し、解析研究・モデル研究をさらに研究を推進していくことを目的としており、観測研究では得られなかったような新規の発想、新規の参加者を奨励しながら新たな研究発展を目指していく予定である。

しかしながら、いくつかの各地域班の研究の継続・モニタリングの継続など、上記の基盤（A）ではサポートしきれないものについては、現在研究費獲得を目指している。